

議 事 録

目 的	第5回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年9月30日（金）19:00～20:00
-----	--------------------------

場 所	中央公民館 2階 講座室A
-----	---------------

部 会 名	第1部会
-------	------

内 容	<p>○出席者 委員：與谷 公孝、岩崎 恭典、玉乃井 耕二、中村 レイ 市：市民サービス課：濱田課長、防災危機管理室：西村係長、市長公室：高濱事務員 コンサルタント：(株)日本開発研究所三重：館部長</p> <p>○主な協議等内容 ・次回開催日 平成28年11月4日（金）19時～ ・質疑応答 以下のとおり</p> <p>進行：部会長 與谷 公孝</p> <p>○質疑 委員：重点的な取り組みの中で「食」という字を多く見るが、体系図に文言は入れなくてもいいのか。 館部長：施策の体系図に関しては、第6次尾鷲市総合計画10年間の基本構想として決められている。絶対に変えてはいけないということはないが、基本的にはこのままで行くつもりである。 委員：111「市民参加によるまちづくり」の現状と課題③の「だれ（どこ）に」という表現はやはり違うのではないかと。検討することが課題ではなく働きかけることが課題ではないのか。 濱田課長：このような表現にした理由は、例えば、若年性に特化した働きかけや、高齢者に特化する働きかけ等、目標を絞った働きかけが今後求められることから、このような表現とさせていただいた。 委員：まず、どこに選別されるのかを精査するということか。 濱田課長：ベクトルを間違えては、効果は上がらない。それを見分ける目がまず求められると考えたため、このような表現とさせていただいた。当然、市民全体へ周知する事項に関しては、周知するが、今後求められるものは違うと考えている。 委員：説明によって理解できたが、できればより分かりやすい表現にして頂きたい。また、検討の為に、地域カルテの様な施策が必要ではないか。地域カルテを作成するといったことを書き込んでいただくことで、具体的な対策が出来てくると思う。 濱田課長：検討させていただく。</p>
-----	--

委員：関連する計画は全てになくてもいいのか。

委員：一つの施策を見ると目立つが、全体を見ると計画がない項目もある。

委員：法律で市の計画策定が義務付けられているものが、関連する計画で挙げられている。例えば、113「市民参加による防災対策」では挙げられているが、115「防犯対策の推進」では、計画はない。

西村係長：計画はないが、防犯委員会という形で、事業を行っている。

委員：市として現状計画を持っていない場合は、記載していないということか。

委員：そういうことだ。

委員：写真の著作権関係は接触しないのか。

館部長：基本的に、この写真は広報にいただいたもので、前もって了承をいただいているものだ。

委員：事前復興計画に関してはどうか。

委員：基本計画の中に書いているならいいと思う。

委員：前から地籍調査が遅れていると言われている。意識付けてして頂きたい。

委員：第5部会にも事前復興計画は絡んでくることであると思う。事前復興計画は事前復興計画でもある。

西村係長：防災でも話し合った結果、東日本大震災の発災後、復興緒に向けたまちづくりを様々な市町が取り組んだわけだが、遅れていた市町もあった。事前に復興計画を立てておけば、万が一にも対応できるため、この一文を入れさせていただいた。

委員：532「都市づくりの推進」の関連する計画にある尾鷲市都市計画マスタープランは完成しているのか。

濱田課長：完成している。

委員：そういった部分に関しては、この後ある全体会にて発言をお願いしたい。

委員：112「情報共有化の推進」の現状と課題③だが、統計データに基づき施策を実施しているのではないのか。

委員：施策実施の前提の話である。

委員：114「消防・救急体制の整備」の現状と課題①に少子高齢化等とあるが、もうすでに少子高齢社会となっているため表現を変えるべきではないか。

館部長：少子高齢化はその状態が進んでいる状態であるため、表現としては間違っているわけではないが、文言整理の中で、全体を通して統一できるよう確認させていただく。

委員：それに付随して、一般論の中で、項目になっている部分があったので修正してほしい。

委員：422「生涯スポーツの推進」の部分だと思う。

委員：このようなことが、多々ありますので確認をお願いしたい。

委員：114「消防・救急体制の整備」の主な取り組み方針の応急処置は実施されているのではないのか。もし、しているなら、実施継続の旨を示してほしい。

委員：115「防犯対策の推進」の少年センターに注釈を入れていただきたい。

西村係長：検討させていただく。

委員：主な取り組み方針①にある「市民ニーズにあった防犯灯の整備に努め、犯罪を未然に防止する環境を整備」とあるが、「犯罪を未然に防止するため、防犯灯を整備する」のではないのか。

濱田課長：防犯灯には設置基準がある。今までは、空き地や空き家がなければ、防犯灯はいらなかったが、現在は、そうではなく、地域の現状を吸い上げた後に、防犯灯を設置することになっている。

委員：方針②の具体的事例はあるか。

濱田課長：老人会へ行っての啓発活動を行っている。自分自身の体力低下等を自覚して頂くことも、加害者にならない手段の一つであると思う。

委員：116「交通安全対策の推進」の現状と課題①「持続的に通学路の安全を確保するため、「尾鷲市通学路交通安全プログラム」を策定し」とあるが、「持続的に」は「尾鷲市通学路交通安全プログラム」の前に置くべきだと思うが、どうだろうか。

濱田課長：課題はプログラムをつくることではなく、持続的に通学路の安全守ることであるため、この表現であると思う。

委員：現状と課題②「その成果として、交通事故発生件数は減少しています。」としてはどうか。

委員：方針①に市民を入れるべきではないのか。

濱田課長：交通安全プログラムの中で市民は対象となっていないため省いている。

委員：高齢者などをターゲットとした取り組みとあるが、ターゲットという表現は変えた方が良いのではないのか。

委員：122の地域住民を「巻き込む」を「中心とした」に変更して頂きたい。

以上